2020年、
あの時を生きた
君たちへ。

この夏の星を見る

7/4 FRI

桜田ひより

水沢林太郎　黒川想矢　中野有紗　早瀬憩　星乃あんな　和田庵　萩原護　秋谷郁甫　増井湖々　安達木乃　蒼井旬　松井彩葉（子役）　中原果南　工藤遥　小林涼子
上川周作　河村花　朝倉あき　清水ミチコ　ビスケッティ佐竹　堀田茜　近藤芳正

岡部たかし

原作：辻村深月『この夏の星を見る』（角川文庫 /KADOKAWA刊）　監督：山元環　脚本：森野マッシュ
音楽：haruka nakamura　主題歌「灯星」haruka nakamura + suis from ヨルシカ（Polydor Records）

FLARE CREATORS 企画 第一弾作品

総合プロデューサー：松井俊之　プロデューサー：島田薫　音楽プロデューサー：津島玄一　音楽スーパーバイザー：森田太　撮影：菅祐輔　照明：渡邊大和　録音：井村優佑
編集：瀧田隆一 熊谷夏帆　VFX Supervisor：佐伯真哉　VFX Producer：巻田 勇輔　カラリスト：芳賀脩　スクリプター：万洲田千尋　美術：小林蘭
DIコーディネーター：島健太郎　DIプロデューサー：呉雪那　音楽制作：山口響子　天文監修：岡村典夫　アストロフォトグラフィー / VFX Director / 天文監修：竹本宗一郎
宣伝クリエイティブプロデューサー：畑間晶太　宣伝プロモーションプロデューサー：三原知之　宣伝企画プランナー：原健介　宣伝企画：山中雄介
宣伝アートディレクター：榎本卓朗　宣伝コピー：中村直史　宣伝デザイン：佐藤和美　協力：長崎県五島市　ロケーション協力：茨城県立土浦第三高等学校
企画協力：KADOKAWA　制作プロダクション：東映テレビ・プロダクション　配給：東映　企画：FLARE CREATORS
©2025「この夏の星を見る」製作委員会

2020年、あの時を生きた君たちへ。

この夏の星を見る

Catching The Stars of This Summer

7/4 FRI

桜田ひより

水沢林太郎　黒川想矢　中野有紗　早瀬憩　星乃あんな　和田庵　萩原護　秋谷郁甫　増井湖々　安達木乃　蒼井旬　松井彩葉（子役）　中原果南　工藤遥　小林涼子
上川周作　河村花　朝倉あき　清水ミチコ　ビスケッティ佐竹　堀田茜　近藤芳正

岡部たかし

原作：辻村深月『この夏の星を見る』（角川文庫 /KADOKAWA刊）　監督：山元環　脚本：森野マッシュ
音楽：haruka nakamura　主題歌「灯星」haruka nakamura + suis from ヨルシカ（Polydor Records）

FLARE CREATORS 企画 第一弾作品

総合プロデューサー：松井俊之　プロデューサー：島田薫　音楽プロデューサー：津島玄一　音楽スーパーバイザー：森田太　撮影：菅祐輔　照明：渡邊大和　録音：井村優佑　編集：瀧田隆一 熊谷夏帆
VFX Supervisor：佐伯真哉　VFX Producer：巻田 勇輔　カラリスト：芳賀脩　スクリプター：万洲田千尋　美術：小林蘭
DIコーディネーター：島健太郎　DIプロデューサー：呉雪那　音楽制作：山口響子　天文監修：岡村典夫　アストロフォトグラフィー / VFX Director / 天文監修：竹本宗一郎
宣伝クリエイティブプロデューサー：畑間晶太　宣伝プロモーションプロデューサー：三原知之　宣伝企画プランナー：原健介　宣伝企画：山中雄介
宣伝アートディレクター：榎本卓朗　宣伝コピー：中村直史　宣伝デザイン：佐藤和美　協力：長崎県五島市　ロケーション協力：茨城県立土浦第三高等学校
企画協力：KADOKAWA　制作プロダクション：東映テレビ・プロダクション　配給：東映　企画：FLARE CREATORS
©2025「この夏の星を見る」製作委員会

最高で、2度と来ないでほしい夏。

©2025「この夏の星を見る」製作委員会

世界がコロナ禍に覆われた2020年。
部活動を制限された中高生たちが挑んだのは、オンラインを駆使して日本各地で同時に天体観測を行う競技「スターキャッチコンテスト」。
茨城、東京、長崎・五島の学生が始めたこの活動はやがて全国に広がって —。

2021-22年にかけて新聞に連載された辻村深月の小説『この夏の星を見る』（角川文庫 /KADOKAWA刊）。『ハケンアニメ！』『傲慢と善良』など映画化作品も多く、老若男女の読者を魅了し続ける著者の長編が、新たに実写映画となって届いた。監督の山元環と脚本の森野マッシュは、共にこれが劇場長編デビュー作となる。キャスト陣も次世代を担うフロントランナーの若いチームが集結。未曽有の事態に直面した少年少女の哀しさやもどかしさ、そして、彼らが触れる人々の優しさと温かさを瑞々しく描き出す。

茨城県の天文部で活動する高校生の亜紗を演じたのは桜田ひより。『交換ウソ日記』(23)『バジーノイズ』(24)『大きな玉ねぎの下で』(25) などのヒロインを担ってきた圧倒的な青春を感じさせるたたずまいで、先の見えないコロナ禍での不安や悩みを抱えつつ、天体に魅せられた喜びを支えに走り出す姿を熱演。亜紗の同級生で天文部員として歩みを共にする凛久には、「MEN'S NON-NO」の専属モデルでもある水沢林太郎。映画『おいしくて泣くとき』(25) やドラマ「なんで私が神説教」(NTV) にも出演中の注目株が、思春期の多感な心の揺れと向き合う。また、東京の中学に通う孤独な新入生・真宙には『怪物』(23)『国宝』(25) の黒川想矢、長崎・五島列島で高校最後の夏を過ごす円華には『PERFECT DAYS』(23) の中野有紗、その親友の小春に『違国日記』(24)『か「」く「」し「」ご「」と「』(25) の早瀬憩、真宙を理科部に誘う天音には『ゴールド・ボーイ』(24) の星乃あんなが顔を揃える。さらに天文部の顧問である綿引先生を「キャスター」(TBS) の岡部たかしが演じ、カメラの内外で若い出演者たちを見守った。

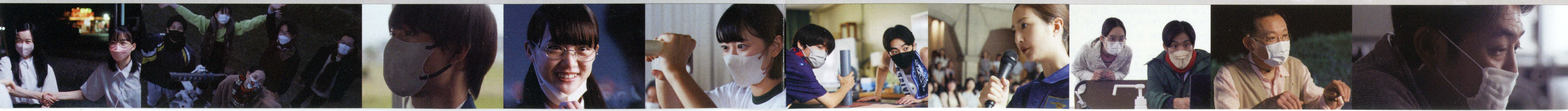
監督は大阪芸術大学の卒業制作『ゴロン、バタン、キュー』(15) で早くから注目を集め、本作で劇場長編映画デビューを飾った山元環。配信やテレビドラマで積んできたキャリアを注ぎ込み、気鋭の脚本家・森野マッシュとのタッグで、10 代の登場人物たちが織りなす青春の輝きをスクリーンいっぱいに投影してみせた。また、『ルックバック』(24) のharuka nakamuraが、音楽と主題歌を担当し、ヨルシカのボーカルメンバーであるsuisが主題歌を歌唱している。

みんなコロナのせいだった。でもコロナじゃなければ会うこともなかった。「この一年にも意味はあったって、特別だったって、信じられる」。だから空を見上げる。心の動きを見逃さず、捕まえて、離さないで。この夏、最高に熱い一生に一度の奇跡が起こる！

かわいそうな世代かどうかは、私たちが決めること。

2020年、コロナ禍で青春期を奪われた高校生たち。茨城の亜紗は、失われた夏を取り戻すため〈スターキャッチコンテスト〉開催を決意する。東京では孤独な中学生・真宙が、同級生の天音に巻き込まれその大会に関わることに。長崎・五島では実家の観光業に苦悩する円華が、新たな出会いを通じて空を見上げる。手作り望遠鏡で星を探す全国の学生たちが、オンライン上で画面越しに繋がり、夜空に交差した彼らの思いは、奇跡の光景をキャッチする——。

konohoshi-movie.jp | PODCAST 配信中 | オリジナルコンテンツ配信中

FLARE CREATORS 企画 第一弾作品